

- 問1 江戸時代の三大改革の一つである寛政の改革について、その背景や内容を説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2020年 山形県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|---|---|---|
| 1. 長崎での貿易を制限し、金銀の流出を防ぐために海舶互市新例を発令した。 | 2. 江戸に流入した農民を強制的に農村へ帰す人別改法を制定し、人口の回復を図った。 | 3. 田沼意次の時代に乱れた政治を正すため、質素倹約を奨励し、武士の規律を厳しくした。 | 4. 商品経済の発展に対応するため、株仲間を積極的に公認して連上金を徴収した。 |
|---------------------------------------|---|---|---|
- 問2 1600年にウィリアム・アダムスが日本に漂着し、のちに徳川家康の外交顧問となった時期から、江戸幕府は対外政策を徐々に強化しました。この過程で、長崎を直轄地として管理し、貿易の統制やキリスト教の布教防止、さらには日本人の海外への渡航禁止などを実施した幕府の役職を選びなさい。 (2021年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|----------|----------|
| 1. 長崎奉行 | 2. 松前奉行 | 3. 江戸町奉行 | 4. 京都所司代 |
|---------|---------|----------|----------|
- 問3 世界の航路発見と日本国内の海運の発展について、歴史的な時系列や内容が正しい記述はどれですか。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 1988年にヴァスコ・ダ・ガマの航路発見から500周年を記念して、江戸と大阪を結ぶ海上交通の安全を祈願した本州四国連絡橋が全線開通した。 | 2. 15世紀末にヴァスコ・ダ・ガマがアフリカ南端の喜望峰を経由してインドへ到達したことは、その後のアジアとヨーロッパの直接貿易の契機となった。 | 3. モンゴル帝国が整備した駅伝制に対抗するため、江戸時代の日本では13世紀のうちに瀬戸内海を横断する本州四国連絡橋の建設が始まった。 | 4. 江戸時代、幕府の命を受けたヴァスコ・ダ・ガマが日本周辺を調査し、東北地方の産物を江戸や大阪へ運ぶ東まわり・西まわり航路を整備した。 |
|---|--|---|--|
- 問4 天明のききんが発生した際、農村の荒廃や食糧不足による米価の急騰は、当時の社会にどのような影響を与えましたか。その状況として最も適切な説明を選びなさい。 (2019年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--|--|--|
| 1. 幕府が株仲間を積極的に奨励したことで、商人の独占が進み物価が安定した | 2. 諸藩が特産物の専売制を廃止したため、農村から都市への人口流出が止まった | 3. 各地で年貢の減免を求める百姓一揆や、都市部で米屋などを襲う打ちこわしが頻発した | 4. 新田開発が全国で成功し、ききんの影響を受けることなく幕府の財政が再建された |
|---------------------------------------|--|--|--|
- 問5 江戸時代の風景画である『富嶽三十六景』について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 墨の濃淡のみを用いる水墨画の手法で、自然の厳しさを宗教的に描いた。 | 2. 「ベロ藍」と呼ばれる輸入された顔料を使い、海や空を鮮やかに表現した。 | 3. 歌舞伎役者の表情を誇張して描き、芝居小屋の宣伝のために配布された。 | 4. 幕府の御用絵師が、大名や公家のために城の障壁画として制作した。 |
|--------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
- 問6 19世紀前半の山口県下関での取引記録を見ると、九州の砂糖、瀬戸内海の塩、山陰の鉄類、上方（大坂周辺）の綿布に加え、北国の海産物や酒などが集まっていたことがわかります。このように、下関などの寄港地が商業の拠点として繁栄した背景にある出来事として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 幕府が東廻り航路を整備し、東北の年貢米を江戸へ直接運ぶ仕組みを優先したこと | 2. 河村瑞賢が西廻り航路を整備し、日本海側と大坂を結ぶ物流網が確立されたこと | 3. 朱印船貿易が盛んになり、東南アジア諸国との間で特産品の交換が行われたこと | 4. ペリーの来航をきっかけに下関が長崎に代わる国際貿易港として開港されたこと |
|--|---|---|---|
- 問7 1792年にロシアの使節であるラクスマンが北海道の根室に来航した際、彼が日本に送り届けた漂流民の名前と、来航の目的の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2020年 新潟県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---------------------------------------|--|
| 1. 漂流民は大黒屋光太夫であり、目的は日本との通商（貿易）を求めることだった。 | 2. 漂流民はラナウド・マクドナルドであり、目的は鎖国の撤廃を要求することだった。 | 3. 漂流民は津太夫であり、目的はキリスト教の布教を許可させることだった。 | 4. 漂流民はジョン万次郎であり、目的は捕鯨船の薪水補給を求めることだった。 |
|--|---|---------------------------------------|--|
- 問8 1842年に江戸幕府が薪水給与令を発令し、対外政策を緩和させた背景と内容について説明した文として、最も適切なものはどれですか。当時のアジア情勢に関する資料の記述を参考にして答えなさい。 (2024年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. ペリーの来航によって開国を迫られた幕府が、不平等条約を締結する前に、暫定的に外国船の寄港と物資補給を認めた。 | 2. アヘン戦争での清の敗北を知った幕府が、武力衝突を避けるために、外国船に燃料や水を与えて穏やかに退去させる方針をとった。 | 3. ラクスマンが根室に来航し通商を求めたため、北方警備を強化する一方で、燃料や水に限り提供して長崎へ回航させた。 | 4. 清での大規模な反乱である太平天国の乱の影響を恐れ、鎖国体制を維持するために、外国船への一切の補給を停止した。 |
|---|--|---|---|
- 問9 江戸幕府は「鎖国」と呼ばれる体制下においても、特定の四つの窓口（四つの口）を通じて、対外関係を維持していました。これらの窓口のうち、対馬藩が朝鮮王朝との外交・貿易を、松前藩がアイヌ民族との交易を、薩摩藩が琉球王国を通じた貿易をそれぞれ担っていました。では、これら三つの藩による窓口のほかに、幕府が直轄地としてオランダや清（中国）との貿易を管理した場所として、正しい地名はどれですか。 (2024年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|------|-------|-------|
| 1. 博多 | 2. 堺 | 3. 長崎 | 4. 横浜 |
|-------|------|-------|-------|
- 問10 江戸時代の琉球王国に関する歴史的な状況を説明した記述として、誤っているものを選択してください。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 1609年の侵攻以降、琉球王国の国王が代わる際には「謝恩使」が、幕府の将軍が代わる際には「慶賀使」が江戸へ派遣された。 | 2. 薩摩藩の監視下で続けられた中国との貿易は、幕府にとっても中国の情報を得るための重要な窓口となっていた。 | 3. 1609年の薩摩藩の侵攻をきっかけに、琉球王国は首里城を中心とした統一国家としての機能を失い、薩摩藩の役人が直接統治を行う県となった。 | 4. 薩摩藩は、琉球が中国との朝貢貿易を有利に進められるよう、中国側の使節が来る際には日本風の文化を隠すよう命じた。 |
|--|--|--|--|
- 問11 17世紀末から18世紀初めにかけて、京都や大阪などの上方を中心に、経済力を蓄えた町人の生活や感情を反映して栄えた文化を何といいますか。 (2016年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 元禄文化 | 2. 東山文化 | 3. 化政文化 | 4. 桃山文化 |
|---------|---------|---------|---------|
- 問12 江戸時代、歌川広重の浮世絵や十返舎一九の『東海道中膝栗毛』といった、江戸を中心に発展した文化が地方へも広く普及しました。このような文化の広まりを支えた当時の社会状況の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 五街道などの交通網が整備されたことで人々の往来が盛んになり、旅人や物資とともに江戸の文化が伝わった。 | 2. 鎖国体制が強化されたことで外国の文化が遮断され、代わりに地方独自の文化が江戸へ集中的に流入した。 | 3. 参勤交代の負担を減らすために幕府が交通路の通行料を無料にし、庶民が自由に江戸へ住めるようにした。 | 4. 幕府が江戸の文化を全国に普及させるために、各地の藩校に対して浮世絵や文学作品を教材として配布した。 |
|---|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 田沼意次の時代に乱れた政治を正すため、質素倹約を奨励し、武士の規律を厳しくした。	寛政の改革は、賄賂政治が横行したとされる田沼意次の政治を批判し、徳川吉宗の享保の改革をモデルに行われました。質素倹約や軍事力の強化が強調されましたが、非常に厳しい統制であったため、民衆からは不満も出されました。他の選択肢は、新井白石の政治や田沼意次の政治、天保の改革の内容を指します。
問2	答え 1 長崎奉行	徳川家康は当初、ウィリアム・アダムス（三浦按針）らを重用して海外貿易を推奨していましたが、次第にキリスト教の浸透が幕府の支配体制を揺るがすことを恐れるようになりました。そこで、幕府の直轄地である長崎に「長崎奉行」を置き、貿易の利益を独占するとともに、日本人の海外渡航や帰国を厳禁する「鎖国」体制を整えていきました。
問3	答え 2 15世紀末にヴァスコ・ダ・ガマがアフリカ南端の喜望峰を経由してインドへ到達したことは、その後のアジアとヨーロッパの直接貿易の契機となった。	ヴァスコ・ダ・ガマによるインド航路の発見（1498年）は、それまでのイスラム商人を介した取引ではなく、ヨーロッパ人が直接アジアへ進出する大航海時代の象徴的な出来事です。江戸時代の国内航路の整備は17世紀（河村瑞賢によるもの）、本州四国連絡橋の開通は20世紀後半（1988年など）であり、時代背景を正確に区別する必要があります。
問4	答え 3 各地で年貢の減免を求める百姓一揆や、都市部で米屋などを襲う打ちこわしが頻発した	大規模な食糧不足は、農民による抵抗運動である「百姓一揆」や、生活に困窮した都市の民衆が米屋などを破壊する「打ちこわし」を激増させました。こうした社会不安の増大により、幕府は政治の立て直しを迫られ、のちの寛政の改革へとつながっていくことになります。
問5	答え 2 「ベロ藍」と呼ばれる輸入された顔料を使い、海や空を鮮やかに表現した。	葛飾北斎の『富嶽三十六景』は、当時普及し始めた安価な化学顔料である「ベロ藍」を効果的に使用している点が特徴です。江戸時代後半には交通網が整備され、庶民の間で旅や名所への関心が高まったため、このような風景画が木版画として大量生産され、広く流通しました。水墨画は室町時代の雪舟などの特徴であり、障壁画は狩野派、役者の誇張表現は東洲斎写楽などの特徴です。
問6	答え 2 河村瑞賢が西廻り航路を整備し、日本海側と大坂を結ぶ物流網が確立されたこと	17世紀後半に西廻り航路が整備されたことで、北国から大坂への物資輸送が活発になりました。この航路では「北前船」が寄港地で商品を売り買いしながら航行したため、中継地点である下関などは各地の特産品が集まる交易の拠点として大きく発展しました。
問7	答え 1 漂流民は大黒屋光太夫であり、目的は日本との通商（貿易）を求めることだった。	ロシア女帝エカチェリーナ2世の命を受けたラクスマンは、伊勢の船頭であった大黒屋光太夫ら漂流民を送り届けるという名目で根室に来航しました。真の目的は、当時鎖国を行っていた日本に対して通商を求めることにありました。大黒屋光太夫はロシアで約10年を過ごし、女帝に直接謁見して帰国を直訴した人物として知られています。
問8	答え 2 アヘン戦争での清の敗北を知った幕府が、武力衝突を避けるために、外国船に燃料や水を与えて穏やかに退去させる方針をとった。	幕府はオランダ風説書などを通じて、大国であった清がイギリスとのアヘン戦争に敗れたことを知りました。強力な軍事力を持つ外国を無差別に刺激し続けることは、日本に戦火を招く恐れがあると判断した老中の水野忠邦は、現実的な対応として異国船打払令を事実上廃止し、燃料や食料の提供によって平和的に退去を促す方針へと転換しました。
問9	答え 3 長崎	江戸幕府は外交や貿易を完全に禁止したわけではなく、長崎、対馬、松前、薩摩（琉球口）の四箇所を公式な窓口として統制していました。長崎は幕府の直轄地として、オランダや清との貿易が行われ、出島などの施設が整備されました。選択肢にある博多や堺は中世に貿易港として栄えましたが、江戸時代の「四つの口」には含まれません。
問10	答え 3 1609年の薩摩藩の侵攻をきっかけに、琉球王国は首里城を中心とした統一国家としての機能を失い、薩摩藩の役人が直接統治を行う県となった。	1609年の侵攻後も、琉球王国は王制を維持しており、薩摩藩による間接的な支配が行われていました。琉球が日本の一つの県（沖縄県）として直接統治されるようになるのは、明治時代の「琉球処分」以降のことです。また、薩摩藩は中国との貿易を円滑にするため、琉球に対してあえて中国風の儀礼や文化を維持することを求め、中国側に対しては日本の支配下にあることを隠そうとしていました。
問11	答え 1 元禄文化	江戸時代中期のこの文化は、幕府の政治が安定し、上方（近畿地方）の町人が経済的な実力をつけたことを背景に発展しました。19世紀に江戸を中心に広まった化政文化や、戦国時代末期の桃山文化とは、時期や中心地が異なります。
問12	答え 1 五街道などの交通網が整備されたことで人々の往来が盛んになり、旅人や物資とともに江戸の文化が伝わった。	江戸時代には、幕府によって五街道などの主要な交通路が整備されました。当初は参勤交代や公用のための整備でしたが、平和な世が続くにつれて庶民による社寺参詣や物見遊山の旅が盛んになりました。この人々の往来が活発化したことが媒介となり、江戸で流行した浮世絵や滑稽本といった文化が、宿場町などを通じて地方へと広まっていく要因となりました。